

機械工学科			コミュニケーション実践				
学年	第4学年	担当教員名	小田島本有				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	2回	必修	履修単位
授業の目標と概要		文章・口頭によって、効果的にコミュニケーションができる能力を身につける。授業では基礎訓練として敬語の基礎、社交上の言語マナーを学び、実践に結びつける。また、社会的問題を題材とした口頭発表と討論の場を設け、レポートを通して記述の訓練をする。					
		釧路高専目標	F:100%		JABEE目標	f	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		実践的科目であり、とくに「話す・聴く」という面での参加意欲が大きく問われる。授業はすべて敬語表現を用いて進めるもので、マナーにも配慮が必要である。常に「相手の身になって考える誠意」をもって臨んでほしい。テキストは配布プリントなので、クリアファイルを用意のうえ、きちんと保存すること。					
到達目標		状況に応じた敬語の使い分け、社交上のマナー、建設的な討議の諸条件について理解できる。また、効果的な論理的記述ができ、望ましい「聴く態度」を身につけることができる。					
成績評価方法		合否判定:試験(50%)・提出物(50%)					
テキスト・参考書		配布プリント 大野晋『日本語練習帳』(岩波新書) 梶原しげる『口のきき方』(新潮新書) 小田島本有『釧路から一国語教師のメッセージ』(釧路新書)					
メッセージ		敬語を学ぶ事は「人間関係学」の勉強をすることだと認識してほしい。また、「話す」「聴く」という行為の中には、場の状況を読む必要性、肯定的な環境を作り出すための要件が含まれている。あらゆる面での大人の態度が期待されている。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
敬語の基礎1(8回)				尊敬表現と謙譲表現が区別できる。			
前期中間試験				実施する			
敬語の基礎2(4回) 社交上のマナー(1回) 手紙の書き方(2回)				状況に応じた使い分けができる。 社交的なマナーについて理解できる。 的確なスタイルに則った手紙を書くことができる。			
前期期末試験				実施する			
口頭発表(レポートを含む)(8回)				効果的な表現ができる。			
後期中間試験				実施する			
討議(レポートを含む)(7回)				建設的な討議を成立させる条件について理解できる。			
後期期末試験				実施しない			